

令和6年2月28日（水）

寒さの中にも春の訪れを感じる頃になりました。少しずつではありますが、新しい息吹に包まれた今日の佳き日に、相生会会長 西中亮二様、PTA会長 岡 和文様ご臨席のもと、ここに、兵庫県立高砂高等学校第七十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、私たち教職員、在校生一同この上ない喜びとするところでございます。ご臨席を賜りましたご来賓、保護者の皆様方には、日頃から本校教育への深いご理解のもと、多大なるご支援とご協力を賜り、また本日は公務ご多忙の中、卒業生の門出を祝福していただいておりますことに、高いところからではございますが、心より御礼申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました76回生189名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、多くの制約の中で高校生活をスタートした学年であります。しかし、コロナ禍から復興の第一歩を踏み出した時の最高学年でもあります。高校生活のスタートは、終わりの見えないコロナ禍にさぞかし不安な日々の連続だったと思います。そんな中でも皆さんは本校に入学以降、「敬愛・勤勉・奉仕」の校訓のもと、学業や部活動、生徒会活動や学校行事など、さまざまな本校の教育活動に、一所懸命取り組み、時には挫折し、時には成功し、試行錯誤を繰り返しながら、いくつもの試練を乗り越えて人間的にも大きく成長されました。三カ年の学業を成し終えられた皆さんの努力と精進に対して、心からの敬意と賛辞を贈ります。

さて、世の中はコロナ禍をようやく脱しようとしています。コロナ禍を契機として様々なことが変化してきています。デジタル化が進みAIが一般化するなど、これまでの価値観も大きく変化してきています。このような時代だからこそ、これからは社会の変化を的確に捉え、溢れる情報の中から真実や正しい情報を見極め、自らが進むべき正しい道に向かい、未来を切り拓く力が必要となります。目先のことにとらわれず、これからの長い人生を見据え、自ら積極的に課題を見つけ、その解決に向け学び続けるという姿勢で、生涯に渡り自己研鑽に努め、常に自分のビジョンと信念を持ち、積極的に挑戦し続けてもらいたいと思います。コロナ禍の一番厳しい時代の高砂高校を支えてくれた皆さんならどんなことでも成し遂げることができると思います。

これから幾多の壁が皆さんの前に立ちはだかることでしょう。しかし、安易に妥協せず、失敗や挫折を次に活かす姿勢を持ち続け、失敗を恐れず、それぞれの夢に向かって邁進してください。そして、これまで皆さんを支えてくださったすべての人々に感謝することを忘れず、新しいステージでの一層の飛躍を心から祈念しています。

さて、保護者の皆様におかれましては、卒業生の晴れやかな姿に、さぞかしお喜びのことと拝察いたします。本日は誠におめでとうございます。三年間、大切なお子様をお預かりし、本校教職員が一致協力し全力で生徒と向き合っていました。不十分な点もあったか

もしれません。しかしその間、本校の教育方針への深いご理解と、本校に寄せられました保護者の皆様からのご厚情とご支援に対しまして、本校教職員を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちです。皆さんの素晴らしい未来に向かって、胸を張って、そして笑顔で進んでください。私たちは皆さんのますますのご活躍を心から期待しています。皆さんの洋々たる前途を祝福するとともに、今後のご多幸をお祈りして、式辞といたします。

令和六年二月二十八日

兵庫県立高砂高等学校長      上出 正彦